

## 執筆者の素顔(健の巻)

「執筆者の素顔」も今回で10人目。残るはがみちゃんとグリコの二人だがこの2人は目下長期充電中なので自分が実質的トリとなる。

まず「素顔の写真」であるが、未だ素顔を見せていないのは日出彦さんと僕ということになる。写真掲載を逃げ回っていたTICA氏はうさお氏にすっぱ抜かれ、yukoさんはTICA氏の浜田省吾を訪ねる旅で素顔を撮られている。ちなみにTICA氏は娘さんを全面的に出し逃れていた。私の場合、別に素顔を隠す理由も無いのだが子供の頃から写真嫌いだったので幼い頃の写真は全く無い。せいぜい卒業アルバムか会社の行事で撮ったものくらい。しかも異動や家の建替えの際に行方不明になっており残念ながら公開できない。DOKU-GAKUを立ち上げる時cacco氏から執拗に誘われたが「自分」の事を晒すのは嫌いなのでさんざん抵抗してきた。結局cacco氏に巧妙に引きずり込まれ「自分」をさらけ出して来た経緯があるのでこういう企画は余り好きではない。しかしながら書き出すとついつい余計なことまで書いてしまう。そこで今回は今まで書いてきた部分をひとまとめにして総集編なるものでお茶を濁すことにしようと思う。

### ●個人データ

【出身】横浜市鶴見区

【誕生日】昭和28年2月15日(1953.02.15)

【星座】みずがめ座

【干支】巳

【血液型】B型

【性格・行動】優柔不断、消極的、粘着気質、一本気、好奇心旺盛、放浪癖あり

【身長・体重】160cm、53kg(最大78kgまで太ったことがある。)

### ●公開質問

質問①旅行をするなら、何処の国に何を見に行きたいですか？

オランダ：江戸時代、唯一、公式に交易を許されていた国なので現代の日本にも残っていない品々やからくり、生き人形、絵画などが見られる博物館が多いと聞いている。狭い国なので長期滞在型を好む自分に合っているのも理由。水のある風景、都市が好きなので運河の多い土地柄なのも良い。そういう意味でベニスも行って見たいところの一つ。子供の頃、台風の水害を経験し街の道路が川になったようなところが好きなのである。

質問②テレカ以外にも何か収集されていますか？

映画のパンフレット・試写状、展覧会のカタログ、広告はがき、書店のカバー、葉、飲物の空缶・空瓶、マッチ、サントリー干支ボトル、映画の前売りグッズなどテレカ関係の他は基本的に只のものが多い。切手は小学生の頃ブームがあったがやたら金額的な価値を競うところが嫌で収集しなかった。(そんなものにかかる金銭を持っていなかっただけのことだが)

**質問③学生時代、嫌いな科目は何でした？（できればその理由も教えてください）**

音楽：音痴というより声域が狭く声も小さいほうなので大きい声を出すと声が裏返るのが恥ずかしく、カラオケは大嫌いです。

得意科目は国語・社会・理科(生物・化学)・英語、不得意科目は物理・数学

勉強そのものは嫌いではありません。数学は3次方程式、因数分解までは理解の範疇でしたが関数、微分、積分の世界に入ったとたんに関数に全く理解できなくなった。

数学はつくづく感性の世界だなと思う。従って、矢澤さんの数式は読み物としては面白くよくわかりますが数式を見ると思考停止に陥り理解できません。物理は担当の教師の出題が難しすぎた。数学より難しく常に赤点(落第)でしたがほとんどの生徒が同様でした。

**質問④警察に捕まったか、捕まりそうになったことはありますか？**

質問の意図はよくわかりませんが自分への質問としては絶妙のような気がします。

小心者なので危険を察知するのは「ゴルゴ13」なみ。従って捕まったことはありません。というのは冗談。

職務質問にあったことはあります。場所は新橋駅の駅前広場にあるニュー新橋ビル内。

新橋駅はビジネスマンというよりサラリーマンのメッカという感じがする場所でニュースで通勤のサラリーマンに聞きましたとか飲み屋のサラリーマンに聞きましたなどのインタビューはほとんどここが使われている。そういうわけで新橋には新幹線や旅客機の格安チケットなど金券類を扱う店がやたらと多い。記憶が定かでないがいまましい気持ちは今でも残っている。状況は先ほどの「ニュー新橋ビル」に入りしばらく行ったところで若い警備員に後ろから肩を叩かれ「ちょっと来てもらえませんか」と言われたのが発端。当然「何でそんな必要があるんだ」と言い返し押し問答になりかけたときバラバラッと5、6人に回りを取り囲まれ唾然とした。気がつくやいなや全員、腰に拳銃があり警備員ではなく警官とわかり仕方なくビルの入り口の前にある交番へ連れて行かれた。職務質問が始まると言っていることがむちゃくちゃでかなり頭にきた。大体何のつもりで職務質問だと聞いても事件があってその事件の参考人と服装が似ていたなどという。「どんな服装だ」と聞くとあいまい。持ち物を見せろというので見せると当てが外れたと思ったのか中の文房具のうちのカッターを見て銃刀法違反だなどととんでもないことを言い出す始末。「文房具屋」も銃刀法違反になるのかなど嫌味を言って開放されたが交番を出る際声をかけた若い警官が「これからどちらへ行きます」と言ったときは本当に頭にきた。敢えて捕まった付近の店を一回りして帰ってきました。本当は声をかけたところで謝ってくれよと嫌味をいったのに知らん顔をされた。

今思うと当時は地下鉄サリン事件から日が経っていなかったのが怪しい奴と思われたのかも知れない。大体、物を収集する人は収集物には金をかけるが服装はあまり気にかけないところがあるからだ。また物を探す雰囲気は胡散臭いと思われたのかもしれない。

**質問⑤好きなタイプの女性はどんなイメージの人ですか？**

この質問、年齢を考えると今更の感じで昔ならオリベッティ(タイプライター)かなあ等

とはぐらかすところだ。

以前、どくがくのアンケートに答えたのは芦川いづみ、田中美里だった。

タイプとしては自分が話しベタなので明るく、社交的な女性が良い。

### ●私はこんな人

心理学に「自分についての4つの窓」というのがある。

①自分も他人も知っている自分②自分は知っているが他人は知らない自分③自分は知らないが他人が知っている自分④自分も他人も知らない自分の4つだ。今回の企画の意図するところは②④のところだろうがこの辺は秘密にしておきたい部分、自分でも分からないところなので自分の行動や人から言われたことを列記するので各自の判断に任せたいと思う

### ●赤ん坊の頃

生まれてまもない頃は結構、引きつけを起こしたりで大変だったらしい。「眼がビードロのように澄んでいてきっと蟲がいるんだよ」と人に言われたことがあるそうで長いこと台所の壁の天井近くに蟲封じの貼り紙が貼ってあった。

### ●兄弟のこと

兄弟は7人、姉、姉、姉、自分、妹、弟、妹の順だ。実際は長男が長女の後にはいたが2歳の時に病死しているので実質自分が長男だ。

両親は家から200mほど離れた公設市場の中で小魚や貝、天婦羅などの惣菜を商っており夜遅くまで働いていた。姉たちは学校から帰ると店の手伝いをさせられていたが自分はお使い程度であまり手伝いをしたことが無い。貧しかったが時間は持て余しており、貧乏人のお坊ちゃまという感じだった。

### ●父親から言われたこと。

飽きっぽい、気が多い、精神分裂症、壊し屋、鉄砲玉、「もっと大きい字を書け」趣味が長続きしないところや買ってもらった玩具などは2、3日すると中が気になって分解し、よく壊した。鉄砲玉は遊びに出ると行ったきり戻ってこないということだ。字は下手なので見やすい字を心掛けている。走り書きすると自分でも読めない。システム部門に長くいたので見やすいとよく誉められるが本当は達筆に憧れている。特に習字の手本にあった「王羲之」の字は品があつて特に憧れている。父親からは小さい字を書くのはごまかしの心があつていかんと言われた。

### ●母親から言われたこと

「お前はつまらん人だね」

会社へ入ってから旅行に出かけることが多くなり母親に行ったところの感想を聞かれ近所の公園と対して変わらないとか答えるので言われた言葉だ。

### ●回りの人は早口、消極的

自分では早口とは思わないが意見を言うとまくしたてられてるように感じるらしい。ある説によると早口な人は本を読むのも速いらしい。

消極的というのは人見知りなほうで対人赤面症に近いものがあったからだ。今なら引きこもりになっていたかも知れないが学校は行くものという戒めの方が強かった。

通信簿にはもっと積極的にという言葉は常に書かれていた。

#### ●趣味のこと

読書、TV・映画鑑賞、囲碁、街歩き、登山、物集め。

登山は会社の山岳部に誘われてよく行くようになった。日本アルプスの3000級の山すべてを踏破するのが目標だったが今となっては達成できそうにない。



#### ●cacco 氏のこと

cacco 氏は次女の姉の中学に上がった時の同級生。よく家に来て二人で絵物語を作っていた。次女はワル島（本名＝飯島）と言われ男連中からも恐れられていたが詩はうまかった。恋愛の詩ではなかったので時々、国語の宿題に拝借したこともある。Cacco 氏とは漫画や推理小説の貸し借りをするようになり今日に至っている。後で知ったことだが cacco 氏のお姉さんと家の長女は同級生だそうだ。

#### ●名前のこと

「飯島」は発音が陰にこもるので余り好きではない。それとよく「飯塚」と言い間違えられる。字が全て角張っているので実印を作ったとき「性格が固いんじゃないか？」と言われたこともある。

会社の女の子には英語名は「E. G. マッケンジー」（飯島健治）と言うんだ。日本語に訳すと気楽（イージー）な健さんってとこかなと言うと受けることもある。

碁会場で相手に大勝した時の事。私の対戦カードを見ながら「強いねえ随分勝ってるじゃない。飯島健治？なんか歌手にいたような名前だなあ」「歌手？…。もしかして新沼謙治の事ですか…。」「おお！そうだ！そうだ。はっはっはっ」てなこともありました。

#### ●ダジャレ好き

ベタなダジャレもよく使うが、次のダジャレ、会話につながるようTPOをわきまえた洒落が好きです。意に反し、会社では「寒～～っ」と回りを冷やしている。

#### ●夜型人間

夜はいくらでも起きていられる。仕事や DOKU-GAKU の原稿も夜にならないとやる気

にならない。金曜に仕事を持ち帰ることもあるが結局やらず腕の筋肉を鍛えるだけになる事が多い。やる時も日曜の夜から月曜の朝方までかかる事がありなぜ日中にやれないのかいつも反省しているが一向に直らない。

### ●目覚し時計

目覚しは無くても必要とあらば何時でも自分で起きられる。大事をとって目覚しをかけていてもたいがいは鳴る前に自分で止めてしまう。

目覚しを使うようになったのはコンピューターを操作する部署に移り交代勤務をするようになってからだ。早番、遅番、夜勤の間に休日が入りこれを繰り返すわけだが夜勤から早番に切り替わる時が大変だった。夜、ぐっすり寝たつもりで起きてみると1時間しか経っていないことが多く、健康に悪いと思い目覚しが鳴るまでは寝ていることに決めたのだから普通とは逆だ。ところが日勤に戻ったとたんに普通に寝られるようになりやはり夜は寝るようにできているんだなあ実感した。

### ●囲碁

囲碁は2段までは日本棋院の免状を持っている。自慢は認定大会で連勝して無料で貰ったことだ。碁会所で打つ時はそのレベルにもよるが3段で打っている。弱い碁会所だと勝率があがって5段まで格上げされたこともあるが恥ずかしくてそこ以外では5段は名乗れない。

認定大会は1日ばかりになるので足が遠のいているが3段の免状までは取っておこうと思っている。免状は賞状の類では見栄えが大変よいので気に入っている。



### ●記憶の達人

記憶力は良いほうだが度忘れも激しいので良いのか悪いのかよくわからない。

過去の記憶は結構、遡れるし同僚がたまたま開けて閉じた引出しの中に何があったかなど自分に必要な物を記憶するのは得意だ。不思議なのはある友人宅への道を必ず間違える事。間違えないように目印をしっかり覚えたのに目印のところで逆に曲がったりし、自分が信じられなくなる失敗が重なった。

●マーフィーの法則のドツボにハマル男

探していた本などを見つけて買うとそのすぐ後にさらに安い値段で売っている店に出くわす。出かけた店が定休日のことが多い。外食して帰宅すると食事が同じ。

●年寄りと幼児に人気がある？

若い頃、喫茶店やバス停で年寄りによく声をかけられ話相手にされた。赤ん坊は親がいる時にあやすのは恥ずかしいので苦手なのだがどういうわけか寄ってくる。

●最近気になっていること。

眉毛の間に皺があること。眼が悪いので眼を細めて見ていたのが原因と思う。ライ隊員の眉間に縦皺があるのを見ていたら自分のも気になるようになった。天知茂は眉毛の間の皺がトレードマークになっていたが。自分はね…。

●立読み

小学5年生の頃だったか国道を越えたところに古本屋を見つけたのがきっかけで鶴見駅近くまで遠征し、徒歩30分の道のりを毎日立読みするため出かけるようになった。三角(みかど)のロータリー付近にはかつて5、6軒古本屋がありはたきで追い出されても次の古本屋へと立読みのはしごをしていた。鶴見に駅ビルができた時は「天下堂」という新刊店が出店していたので子供向けの推理小説を2時間かけて読み切った事もある。

●クラブ活動

東京オリンピックの影響を受け器械体操を中学、高校とやっていました。

高校2年の時、横浜市の大会で種目別の鉄棒で2位に入ることがあります。



●大食い

兄弟が多かったせいか食事は早い。3分から5分もあれば充分。両親は家とは離れた場所で商売をしていたので帰宅が遅く、夜の食事はいつも10時頃だった。空腹を我慢するのにも慣れ、1日位は食べなくても平気だがその分食べられる時は大食いも得意だ。

両手鍋一杯に作ったヤキソバを一人で完食したこともある。

●コーラのホームサイズ一気飲み

昔、「笑っていいとも」で渡辺正行が素人相手にコーラの早飲み対決をするコーナーがあったが多分、負けないと思う。

●アウトサイダー型B型人間

B型は親分肌、リーダーシップを発揮するタイプが多くわがままというが自分にはそういうところはない。完璧を好む、拘る時は徹底しているが興味の無い事には無関心といったところがアウトサイダー型B型人間かなと思うところだ。

### ●俳句

俳句を始めたのはゆうこさんが俳句のホームページを立ち上げ、DOKU-GAKUに17文字の掲載を開始したのが直接のきっかけだが伏線はあった。

衛星放送の番組で「俳句王国」という句会形式の番組を見るようになっていたからだ。

この番組は囲碁・将棋の番組の前に放送しているので自然に見るようになった。

元々、感受性に乏しく花を見ても咲いているなどは思っても感慨は湧かない。それをうまく捉えて句にするところに興味を持ち俳句でも作れば周りに眼が行くようになるかなあと思っていた。句の形は前よりましになってきたが感動する気持ちを持つところがまだまだなんだなあ。

### ●TV

TVは家にいる時はつけっぱなし。現在は狭い部屋に似合わない32インチの大型テレビに最長1000時間撮れるハードディスクビデオ、MD、TAPE用のビデオを接続している。

### ●似ている人間

桜木健一、勝新太郎、小倉久寛

### ●仇名

子供の頃：けん坊、健坊ちゃん（これは近所のおかみさん、呼び捨ては悪いと思っ  
ことらしい）、

中学の頃：坊さん（ずっと坊主頭だった。高校の時は角刈りかスポーツ刈り  
おかげで自分ではちゃんと整髪できない）、

高校の頃：タメ（ハナ肇の「あつと驚くタメゴ〜ロウ」のギャグに由来している）

入社：ドラ（係長代理がつけた仇名でドラ息子のこと、女子社員からはドラさんと  
呼ばれていた）

以上、紙数が増えるばかりなのと今後書くネタが無くなるのでこら辺で止めておきます。  
少しは私の素顔が見えてきたでしょうか？

